

# 馬場 健 論文内容の要旨

## 主 論 文

### Fatty liver and uric acid levels predict incident coronary heart disease but not stroke among atomic bomb survivors in Nagasaki

脂肪肝と尿酸値は脳卒中ではなく冠動脈疾患発症の予測因子となる。長崎被爆生存者の研究

馬場 健、尼崎 泰子、早田 みどり、飛田あゆみ、今泉 美彩、  
市丸晋一郎、中島 栄二、瀬戸 信二、矢野 捷介、赤星 正純

Hypertension Research 30 巻 9 号、823 頁-829 頁、2007 年

長崎大学大学院医学研究科内科系専攻  
(指導教授：前村浩二 教授)

## 緒 言

内臓への脂肪集積はインスリン抵抗性症候群の中心的役割を果たしている。これは臨床的にメタボリック症候群として定義されている。また内臓への脂肪集積は肝臓自体への中性脂肪の集積を来し、いわゆる脂肪肝の所見を示す。非アルコール性脂肪肝自体についてもインスリン抵抗性、肥満、脂質異常症、耐糖能異常と関連しており、冠動脈疾患を予測することが報告されているが、脂肪肝の指標としては $\gamma$ -GTP やトランスフェラーゼなどの血液学的所見が利用されており、超音波検査により検出された脂肪肝と冠動脈疾患の関連を検討した報告はほとんどない。今回、被爆生存者を対象に脂肪肝と冠動脈疾患、脳卒中の関連について検討を行った。

## 対象と方法

1990年から1992年の検診で腹部超音波検査を行った冠動脈疾患および脳卒中を認めない被爆生存者2024名（うち男775名：平均年齢 $62 \pm 10$ 歳、女1249名：平均年齢 $63 \pm 8$ 歳）を対象に、2000年12月まで冠動脈疾患および脳卒中の出現を観察した。

## 結 果

最初の検診で腹部超音波検査により 121 例の脂肪肝例を認めた。観察期間（平均9年）の間に冠動脈疾患49例、脳卒中84例の出現を認めた。脂肪肝と臨床的所見の検討では、短変量および多変量解析の結果、脂肪肝と肥満 ( $p < 0.01$ ) 高血圧 ( $p < 0.01$ ) 脂質異常症 ( $p < 0.01$ ) 耐糖能異常 ( $p < 0.01$ ) の間に相関を認めた。脂肪肝と高尿酸血症の間では有意ではない軽度の相関 ( $p = 0.07$ ) を認めた。冠動脈疾患の発症について多変量解析を行ったところ年齢（リスク比1.05）喫煙（リ

スク比2.2)、高尿酸血症(リスク比2.30)、脂肪肝(リスク比2.53)が関与する事が判明した。一方、脳卒中の発症には年齢(リスク比1.08)、喫煙(リスク比2.06)、高血圧(リスク比2.14)が優位な相関を認めた。

#### 考 察

腹部超音波検査における脂肪肝は冠動脈疾患発症の予測因子となるが、脳卒中については認められなかった。冠動脈疾患を予防するためには、脂肪肝自体をメタボリック症候群と同様にフォローする必要がある。